美麻の活性化に向けて僕たちができること

「お祭り組」地域の伝統を復活

美麻をもっと元気に！
獅子舞復活

美麻中学校の七年生「お祭り組」は、美麻千見地区で長年途絶えていた獅子舞を復活させた。「お祭り組」は最初「美麻の廃集落」「美麻に伝わる神社・山伏」について調べていた二つのグループが一つになったものだ。「人口減少が進む美麻のために自分たちも何かしたい」と考え、このグループが誕生した

お祭り組は、美麻千見地区の獅子舞・神楽を復活させるために２０１４年７月から練習に取り組んできた。

きっかけは、各地区の神社の様子を調べていく中で、千見神明宮では昔、獅子舞を奉納していたというお話をお聞きしたことだ。今は演じることができる人が少なくなり、近年では途絶えてしまっていた。そこで私たちは、千見地区の方から教えていただき、獅子舞を復活させようと考えた。

「お祭り組」は笛３人、太鼓２人、お獅子１人の６人の総合的な学習のグループだ。２０１４年の８月から夏休みなどを使って練習を始めた。そして、美麻夏祭りや地区文化祭などで復活した獅子舞・神楽を大勢の人に見てもらうことができた。お祭り組のお獅子を担当した太乙本君は、「夏から練習してきた成果が出せて良かった。練習の初めはなかなかうまく出来なかったけれど、だんだん腰が低く出来るようになり、元の獅子舞に少しでも近づければ、と思った。

また、地域の方々に復活した獅子舞を見ていただけて、とても嬉しい」と話した。

美麻夏祭りで獅子舞披露する「お祭り組」

獅子舞の復活には、千見地区の方々や先生方が予定を組んでくださっていたり、大切な獅子頭を貸してくださったりして、多くの人の支えがあって実現出来たことだった。

また、この獅子舞を千見神明宮の秋祭りで奉納させていただき、一生忘れられない体験になった。

（千織画）

美麻の廃集落の現状を探る

人が住まなくなり荒れた家（青具地区大倉）

僕たちは美麻の人口減少について美麻村誌などを使って調べた。すると、昔は人が住んでいたのに誰もいなくなってしまった集落があることを知った。現状を調べてみたいと考え、実際に行って調べた。まず美麻青具地区大倉に向かった。山道を15分程歩くと５～６軒程の集落が見えた。集落にはまだ建っている家もあったが、なかには雪の重みで潰れている家もあった。家の中は雨や風にさらされ、とても荒れていた。

大倉集落の方々は昭和50年代の政策を受け、川手地区に移住したそうだ。次に高地集落に向かった。高地には昔美麻小中学校の分校があったそうだ。分校跡地には石碑があり、生徒の名前が書かれていた。黒岩、竹村、種山、松田という、今の美麻小中学校の生徒の中では見かけない名字が多かった。

大倉や高地に行ってみて美麻の人口が減っていることが分かった。

お祭り・絵馬の由来

美麻のお祭りや神社に奉納されている絵馬について調べるために、大塩地区富士浅間神社と、千見神明宮にうかがった。昔の人が農業をする際天候恵まれるように神様に祈り、収穫が済むと感謝をしたのがお祭りの始まり。昔は季節の節目に六回ほどあり、その日は村の人総出でお祭りに参加した。しかし、時が経つにつれ、町に勤めに出る人が増え、休日にお祭りをするようになってきた。今では、年に一回のみ各地区で行われている。

千見神明宮の天照大神の「天の岩戸」の絵馬（千見地区）

絵馬とは何か、なぜ奉納されたのが絵馬なのかについても調べた。昔は、生きた馬を奉納していたが、餌などの世話が大変なため絵馬になった。富士浅間神社には、鵜（う）という伝説の怪物が描かれている絵馬などが計12枚あり、千見神明宮には、天照大神などの絵馬がある。どちらも、神話や昔話の一場面を表している。たくさんの絵馬を見せてもらい、絵馬には色々な意味が込められていることがわかった。

山伏の足跡

まずは、学校で地域の方にお話を聞いた。山伏は農民に頼まれ、雨乞いなどを行っていたこと、また、それだけでは生活が大変なため農業や養蚕もやっていたことなどがわかった。

さらに、青具・二重地区に住んでいる山伏の末裔にあたる方を紹介していただいた。

二重地区の塚田寛攻さんからは山伏の免許制について教えていただいた。山伏には免許があり、免許なしで仕事をして農民からお金を取ることはできなかったそうだ。まず大町市近辺の山に入り、修行してから高野山（和歌山県）や比叡山（滋賀県）で本格的に修行をしてやっと免許が取れたそうだ。塚田さんのお宅には山伏の肖像画や免許状が残っていた。

青具地区の因幡廣一さんのお宅には山伏が持ち歩いていた巻物やお守りが残っていた。巻物は梵字という字で方角などについて書かれていた。